

スイカ（半促成）

品種	月	11	12	1	2	3	4	5	6
半促成栽培	富士光TR 縞王マックスKE	無加温	○	△	◎	×			
	春のだんらん		○	△	◎	×			
	祭ばやし777		○	△	◎	×			
	富士光HF		○	△	◎	×			
	主な作業					播種	接木	定植	交配

(3)所得率 40% / 10a

(4)経営規模

130a

(家族労力2人の場合)

技術体系

1 作型の特徴

この作型は育苗期を加温し、定植～収穫までは基本的に無加温で栽培する。播種期は11月～1月となるが、交配が2月になる作型では生育前半が最も低温・少日照下での生育となるため生育及び着果が不安定となりやすい。そのため十分な保温対策が必要である。

また、交配期には着果安定のため暖房機の利用が有効が高い。

2 適応地域

平坦地域

3 栽培条件

排水が良好な有効土層の深い畑地帯が適する。スイカは最も光量を必要とする果菜類であり、日照条件の良い圃場を選定する。

4 施設装備

- (1)連棟ハウス及び単棟ハウス
- (2)暖房機
- (3)カーテン+トンネル

5 経営目標

- (1)収量 3.1t / 10a
- (2)投下労働時間 400時間 / 10a

栽培技術

1 品種と特性

生育前半が最も低温、少日照下での生育となるため、低温伸長性や低温着果性に優れる良食味実品種を選定する。

「春のだんらん」

低温寡日照下でも雌花着生は非常に安定している。果皮色は緑色で、肥大性に優れ、果肉の発色がよく、糖度は安定しており、シャリ感に優れる。

「祭ばやし777」

草勢はやや強いが、低温少日照下でも雌花着生や雄花の花粉の出がよい。果皮色は濃緑色で、果形も極めて安定している。

糖度は極めて高く安定しており、シャリ感に優れる。

2 育苗

(1) 播種期

ア 春のだんらん

連棟無加温 11月中旬～12月上旬

単棟無加温 12月上旬～12月中旬

イ 祭ばやし777などの品種
 連棟無加温 12月上旬以降
 単棟無加温 12月中旬以降

- (2) 播種量
 1000粒 / 10a 当り
 (3) 育苗期間
 播種後約 50 日

3 土壌消毒

センチュウ、黒点根腐病予防のため本圃の消毒を行う。

4 施肥

施肥量		(kg / 10a)		
前作	施肥時	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
果菜類	+ 植え替え	8 ~ 20	6 ~ 20	8
	(数年間スイカ連作)			
葉菜類	同上	22 ~ 23	14 ~ 15	9 ~ 10
休閑地	初作地	25	16	20
	+ 植え替え			

- (1) 完熟堆肥 2ト / 10a を施用する。
 (2) 果菜類の連作地では土壌分析を行って、施肥量を決定する。
 (3) 火山灰土壌ではリン酸施肥量を増やす。

5 定植

- (1) 定植時期
 連棟無加温 1月上旬～下旬
 単棟無加温 1月下旬～2月上旬

(2) 栽植様式

畦幅	株間	10a 当り株数	備考
2.5m	60 cm	667	3 仕立て
2.7	55 cm	673	
3.0	50 cm	667	

6 定植から生育初期の管理

定植は晴れた日に行い、定植後 1 週間程度はトンネルを密閉して活着促進を図る。ただしトンネル内の温度は 38℃ 以上にしない。キャップ使用は定植後 7 日までとする。

7 交配期の管理

着果節位は 18 節以降とし、子房の形が良い雌花となってから交配を始める。高節位の着果は果肉が硬く

なり過ぎ、熟期も遅れる。

花粉形成は 13℃ 以上、花粉の発芽は 15 ~ 35℃ であり、最適温度は 27℃ 前後である。

3 月以降の交配ではミツバチの利用も可能である。その場合、交配前の殺虫剤の散布に注意する。ミツバチは 20 ~ 25℃ が最も活動し、日中高温すぎるとハウスの天井付近に留まって交配しない。

8 摘果・着果表示

縦長で形が整った幼果を 1 果残し、2 日に 1 回の間隔で果径が 7cm になったら着果棒を立てる。

9 着果から肥大期の管理

着果節の 3、4 節上からは側枝を残す。遅い作型ほど側枝を多く残す。

10 成熟期からの管理

- (1) 温度管理は日中 26 ~ 28℃、最低温度は 13℃ を目標に管理する。
 (2) 収穫 10 日前までに 3 回玉直しをする。
 (3) 収穫は、着果棒による適期に行う。

収穫の目安としては 4 月で着果棒を立ててから 55 日、5 月で 50 日程度である。(1 旬毎に 2、3 日早くなる)

11 植え替え

- (1) 播種期
 前作の定植後 15 日程して穂木の播種を行う。
 (2) 定植
 前作の着果後 20 ~ 25 日に株間あるいは畦の反対側に植え替え用苗(若苗)を定植する。
 (3) 整枝
 3 本仕立ての 1 果どりとし、強整枝はしない。
 (4) 番果のつるの整理
 前作収穫後、直ちにつるをハウスの外へ搬出する。
 (5) 交配

目標着果節位は、18~20 節とし、草勢が弱い場合はやや高くする。交配はミツバチを利用し、巣箱はハウスの外に置く。ハウス内が 35℃ 以上にならないよう換気を図る。

(6) 交配後の管理

果形の良好なものを 1 株一果残し、2 日に 1 回の間隔で、果径が 7cm になったら着果棒を立てる。